

# 短所は後からでもカバーできる — 逆接表現による文境界を越えての談話焦点の効果 —

○井関龍太<sup>1,2</sup>・楠見孝<sup>2</sup>  
<sup>1</sup>日本学術振興会・<sup>2</sup>京都大学



## 【背景】

### 【逆接表現による談話焦点効果】

“～だが”という**逆接の接続表現**を用いると、順接の表現を用いた場合に比べて、人物の印象が変化する（井関・菊地, 2007, 認知心大会）

- (1) 逆接：“和也は知ったかぶりをするが、欲がない”
- (2) 順接：“和也は知ったかぶりをし、欲がない”

- ・述べられるパーソナリティ特性は同じ
- ・ネガティブ語で一貫した効果（ポジティブ語では効果がみられないことが多い）

### 【文処理における文境界】

文を構成する単語が逐次的に入力される場合、ある程度の**統語的・意味的まとまり**を作れるだけの情報が蓄積されてから処理を始める方が効率的なことがある（様子見方略）

- ・文末、節末はそのようなまとまりの候補
- ・文をまたいで提示された情報は、**統合されにくくなる**ことがある（Daneman & Carpenter, 1983; Guzmán & Klin, 2000）

→逆接表現による談話焦点効果には当てはまるか

### 【本研究の目的】

対比される特性を別の文で提示した場合にも、**逆接表現による談話焦点効果**がみられるかを検討する

- ・実験 a：2文に分けた場合の検討（逆接の接続詞として、“けれども”を使用）
- ・実験 b：1文に結合した場合の検討（実験 a と同じ“けれども”を用いた先行実験の追試）

## 【方法】

【実験参加者】調査会社の回答者パネルに登録した大学生及び大学院生。実験 a に63名（女性25名）、実験 b に72名（女性29名）が参加。

【要因計画】2（**特性語**：ポジティブ・ネガティブ）×2（**接続法**：逆接・順接）×2（**特性語の位置**：先行・後続）の被験者内計画。

【材料】56組の文材料（井関・菊地, 2007, 認知心大会）。

- ・特性語は、青木（1971）に基づいて選択。
- ・中立語とポジティブ語 or 中立語とネガティブ語。
- ・実験 a の接続表現：2文にまたがる  
逆接＝“～。けれども、～。”、順接＝“～。そして、～。”
- ・実験 b の接続表現：1文に収める  
逆接＝“～だけれども、～。”、順接＝“～で、～だ。”

### 使用した材料の例（実験 a）

#### 【ポジティブ語】

- 先行－逆接：和也は**がまん強い**。けれども、欲がない。
- 先行－順接：和也は**がまん強い**。そして、欲がない。
- 後続－逆接：和也は欲がない。けれども、**がまん強い**。
- 後続－順接：和也は欲がない。そして、**がまん強い**。

#### 【ネガティブ語】

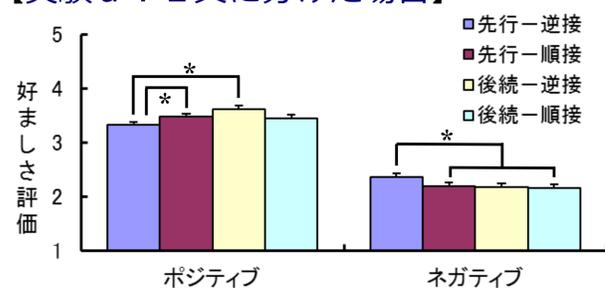
- 先行－逆接：和也は**知ったかぶりをする**。けれども、欲がない。
- 先行－順接：和也は**知ったかぶりをする**。そして、欲がない。
- 後続－逆接：和也は欲がない。けれども、**知ったかぶりをする**。
- 後続－順接：和也は欲がない。そして、**知ったかぶりをする**。

※非中立語を色づきで示した。実際の画面では、すべて黒で提示した。

【手続き】各人のPC上で材料を読んで、それぞれの人物がどのくらい好ましいと感じるか、5段階で評定を求めた（1＝まったく好ましくない～5＝とても好ましい）。

## 【結果と考察】

### 【実験 a：2文に分けた場合】



#### 【全体での分析】

- ・3要因の交互作用が有意

#### 【ポジティブ語】

- ・接続法×接続語の位置の交互作用
- ・先行：逆接<順接  
→逆接表現で評価が低下
- ・逆接：先行<後続  
→**ポジティブ語**が反対されたときに効果あり

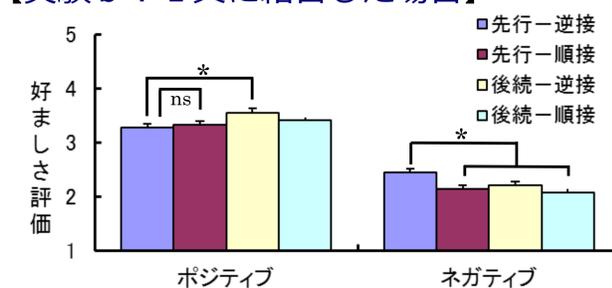
#### 【ネガティブ語】

- ・接続法×接続語の位置の交互作用
- ・先行：逆接>順接  
→逆接表現で評価が向上
- ・逆接：先行>後続  
→**ネガティブ語**が反対されたときに効果あり

#### 【まとめ】

- ・刺激を2文に分けた場合でも、逆接表現によって人物に対する評価が変化した
- ・ネガティブ語でも、**ポジティブ語**でも、談話焦点の効果がみられた

### 【実験 b：1文に結合した場合】



#### 【全体での分析】

- ・3要因の交互作用が有意

#### 【ポジティブ語】

- ・実験 a と部分的に異なる
- ・接続法×接続語の位置の交互作用
- ・先行：逆接＝順接  
→逆接表現で、順接表現に比べて、評価が低下していない
- ・逆接：先行<後続

#### 【ネガティブ語】

- ・実験 a と同じ
- ・接続法×接続語の位置の交互作用
- ・先行：逆接>順接
- ・逆接：先行>後続

#### 【まとめ】

- ・刺激が1文の場合に、逆接表現によって人物に対する評価が変化した（先行研究と同じ）
- ・**ネガティブ語**でのみ、明確な効果（先行研究と同じ）

### 【文境界を越えての効果】

2文に分けた場合でも（実験 a）、1文に結合した場合でも（実験 b）、逆接表現による談話焦点効果がみられた

- ・**ネガティブ語**：一貫した印象改善の効果
- ・**ポジティブ語**：文を分けた場合のみ、印象低下の効果

### 【2文に分けた場合のみのポジティブ語の効果】

文を分けた場合の方が、それぞれの文処理が完了している（**統合済み**）ため、意味的な対比がしやすいのかもしれない  
 ・ただし、実験 a, b のデータを組み合わせて分析したところ、4要因の交互作用は有意でなかった

### 【グローバルな談話焦点機能】 談話焦点は、文境界を越えて機能する

- ・別の文の構成要素同士を意味的に対比させる
- ・**照応過程**の基礎として働いている可能性（照応には、意味素性の分析が必要な場合がある）